

須崎市図書館等複合施設整備事業

説明資料

① 本施設の基本的な考え方

基本コンセプトを十分に理解した「4つの役割」を提案します。

須崎市図書館等複合施設「基本計画」に記載されている、①施設全体 ②図書館 ③防災 ④複合施設のコンセプトを具体化にどう反映していくか“わかりやすい指針”を示します。各々の機能を超えて“融合”し、まちづくりにつながる考え方を提案します。

須崎市図書館等複合施設 [基本計画] + [要求水準書]



須崎市図書館等複合施設 “4つ”のコンセプト

令和3年12月策定「基本計画」コンセプト図

設計の基本的な考え方

施設 情報・交流・テクノロジー新たな出会いへ導くみんなの灯台 人々を迎え入れる『大きなひろば』



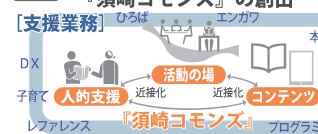
- ・奥四万十地域の玄関口である須崎に、市内外の多くの人を迎え入れ、集い、賑わう『大きなひろば』

防災 いのちを守るために学び、行動できる場所 城山と呼びた安全のシンボル「大らかな屋根」



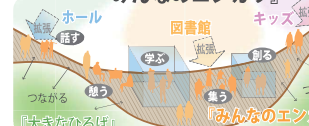
- ・避難拠点（城山）と呼びた「大らかな屋根」は「安全のシンボル」となります。また避難所へと視線を誘導します。

図書 情報と人、人と人の出会いを生み出す図書館 『須崎コモンズ』の創出



- ・人的支援、コンテンツ、活動の場が近接した『須崎コモンズ』が、新しい学びや交流、出会いを生み出します。

複合 みんなの居場所をつなぐ「緑側のある施設」 『みんなのエンガワ』



- ・誰もがここにいたいと思える多様な居場所「みんなのエンガワ」を創ります。

基本コンセプトを踏まえた4つの役割

② 設計コンセプト

須崎の“洲” — 地形・まちの構成の特性を取り込み活かす

昔の須崎は「原（武家屋敷）」「市（商業）」「浜（生活、海と密接な場）」の3つの層構成で、城山を中心に海へと広がる都市構造となっていました。この都市構成は受け継がれて“海まちプロジェクト”へと活かされています。

行政機能が集約された「原（サポート機能）」、お寺や商店などの都市機能の「市（目的機能）」、そして海と密接に関わる人々の仕事や賑わいの中心であった「浜（賑わい機能）」という3つの層の都市構成を新しい建築に取り込み、活かすことで、人々と活動・情報をつなぎます。

これまで積み重ねてきた“市民の想い”を大切にします。

- ・「にぎやかな図書館を考える」市民ワークショップに始まり、基本構想～計画とこれまで市民と積み重ねてきた検討を大切にしながら私たちなりの提案を行います。

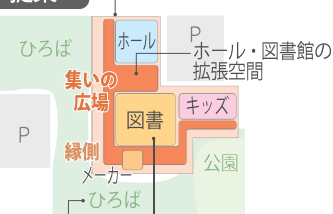
基本計画（市民の想い）



須崎らしさ



提案



- ・活動がひろがる『集いの広場』
- ・活動をつなぐ『緑側』

- ・須崎のまちの“魅力”

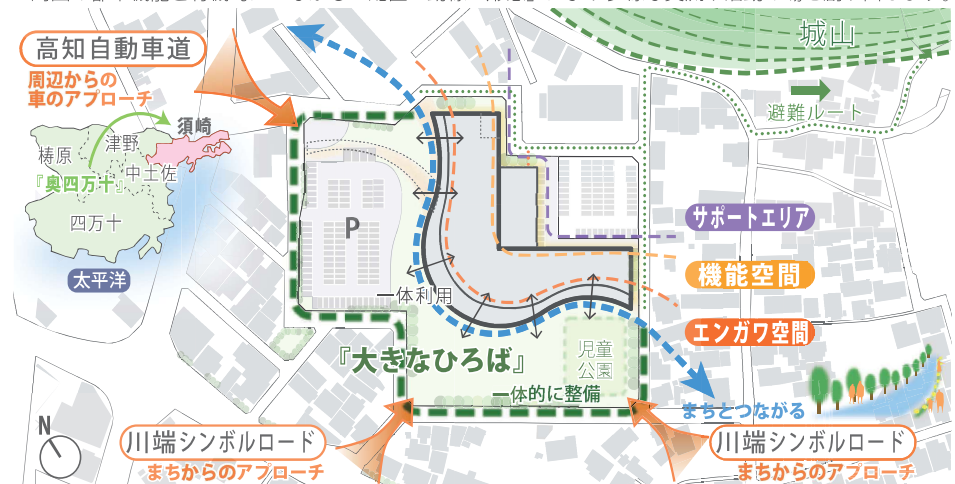
- ・一体的なひろばは整備

- ・セキュリティに配慮した図書館

③ 施設配置や建築デザイン

環境から導き出された“洲” 崎のカタチ

- ・周囲の都市機能と有機的につながる「配置・動線・形態」により多様な交流や活動の場を創り出します。



建築デザイン 4つのポイント

